

2025年号

三井記念 病院通信

Mitsui Memorial Hospital PR Magazine

特集

脳神経内科

患者さんファーストで挑むパーキンソン病治療

病院内探検ツアー

アイソトープ検査室 ～見えない体のはたらきを“画像”で見る～

三井記念病院の登録医紹介

サルスクリニック日本橋



脳神経内科

松本 英之 医師

特集

患者さんファーストで挑む

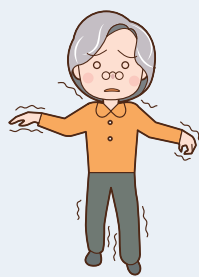
パーキンソン病治療

三井記念病院脳神経内科では、パーキンソン病の治療に力を入れています。正しい診断のもと、一人ひとりの状態に合わせて薬の量を丁寧に調整し、日常生活をサポートします。さらに、運動習慣をつけることによって進行を抑えるリハビリテーション入院も開始しました。多職種の専門スタッフが、リハビリから福祉サービスの利用まで丁寧にサポートし、患者さんの「その人らしい生活」をチームで支えています。長年にわたって患者さんファーストの診療を実践してきた、脳神経内科 松本英之部長にお話を伺いました。

高齢化とともに増える パーキンソン病とは

パーキンソン病は1000人に1人の有病率で、60歳以上の約100人に1人が発症するとされ、高齢化社会とともに患者数の増加が見込まれています。パーキンソン病の4大症状は、安静時の手足の震え（安静時振戦）、筋肉のこわばり（筋強剛）、動作が鈍くなる（動作緩慢）、バランスが取りづらい（姿勢反射障害）です。これらの運動症状に加え、便秘や頻尿、起立性低血圧、発汗異常といった自律神経のトラブル、さらにはうつ症状や認知症などの非運動症状もみられます。前傾前屈の姿勢のほか、表情が乏しくなる仮面様顔貌、嗅覚障害、睡眠障害も特徴的です。睡眠障害では、不眠や過眠に加え、寝ている間に夢のとおり体を動かしたり、叫んだりするレム睡眠行動異常症もみられます。不快な感覚が出て足を動かしてしまう、むずむず脚症候群も非運動症状の一つです。このような日常生活に影響する症状が多彩にあらわれます。

—— パーキンソン病の4大症状 ——



安静時振戦

安静時に手足が震える



筋強剛

筋肉がこわばる



動作緩慢

動作が鈍くなる



姿勢反射障害

バランスが取りづらい

原因はドーパミンの不足とレビー小体の蓄積

パーキンソン病の大きな原因のひとつが、運動の調整に関わる神経伝達物質「ドーパミン」の減少です。脳内でドーパミンを作る神経細胞が減ることで、身体の動きが思うようにコントロールできなくなります。

また、もう一つの特徴が「レビー小体」という異常なたんぱ

く質の蓄積です。脳だけではなく、腸や皮膚などにある神経にも影響を及ぼし、多彩な症状の引き金になります。加齢が最大のリスク要因ですが、10代～40代で発症する若年型の患者さんの中には、遺伝子変異が関与する例もあります。

検査

入院による精密検査で、正しい診断を

当院では、正しく診断することを目的に、外来ではなく入院による検査を原則としています。医師の診察に加え、ドーパミンの放出を確認する核医学検査が必要です。また、パーキンソン病の治療薬が効くか否かが診断に重要であり、治療薬の効果の確認などを経て、複数の専門医によるカンファレンスを通じて診断します。

パーキンソン病の進行は、主にホーン・ヤールの重症度分類で判断します。重症度分類でⅠ度は片方の手足のみ、Ⅱ度は両手足の症状です。Ⅲ度では姿勢反射障害が加わり、Ⅳ度は日常生活に部分的な介助が必要な状態、Ⅴ度は車椅子での生活や寝たきりの段階です。

多くの方は手足の震えがある、転びやすくなったと気づ



き、受診されます。初期には肩や首、腰、膝が悪いのかと思い整形外科を受診される方も多く、早期に正しい診断へつなげることが重要です。

治療

薬物治療は“投与量のコントロール”がカギ

治療の中心は、約60年の歴史がある「レボドパ製剤」による薬物療法です。しかし、薬を多く使いすぎると効き目が急に切れる「ウェアリング・オフ」や体が勝手に動く「ジスキネジア」といった、やっかいな副作用が起こりやすくなります。そこで当院では、できるだけレボドパ製剤を少なく抑えつつ、しっかりと効果が得られるよう、補助薬を組み合わせながらバランスを取る治療を行っています。

さらに、薬物治療のみならず、リハビリテーションも重要です。毎日の散歩、体操、ストレッチなどで、運動機能の維持を図ります。薬が効きにくくなった場合は、専門機関と連携し、脳深部刺激療法や集束超音波療法、レボドパ経腸持続投与(LCIG療法)といった手術療法も選択肢となります。主に発症年齢が若く、薬物での治療が難しい患者さんが対象です。当科では手術が必要な方に、大学病院をはじめ専門の医療機関をご紹介します。

リハビリテーション入院で、進行を“自分で”抑える

運動習慣をつけることで、パーキンソン病の進行が抑えられるという研究成果を受け、当院でも2024年からリハビリテーション入院をはじめました。もともと運動習慣がある方は発症しにくいとされますが、病気を発症してからでもリハビリで進行を抑えられます。薬物治療と異なり、副作用がないという大きな利点があります。リハビリ指導を2週間受けていただくことで、運動習慣が身につくことが最大の目標です。

このため、患者さんを中心として、脳神経内科医、看護師、リハビリテーション部（理学療法士や作業療法士、言語聴覚士）、薬剤師、放射線診断科、管理栄養士、医療ソーシャルワーカー、地域連携室などの多職種によるチーム医療を実践しています。

リハビリテーションの実施、指導のみならず、教育、現状把握、薬剤調整、栄養指導、指定難病や介護保険、身体障害者手帳などの社会福祉導入も実施しています。



実際、リハビリ入院を受けられた約7割の患者さんで、運動習慣が改善しています。「家でも目標通り続けられた」、「ジム通いが習慣になった」という声も届いています。

一方で、運動習慣が改善しなかった患者さんは、重度であったり、認知機能低下を合併していたりする特徴がありました。そのため、重症度分類でⅠ度からⅢ度までの患者さんが良い入院適応と考えています。

また、教育資料を用意しておりますので、病気の理解が深まるのも利点といえるでしょう。リハビリの効果を引き出すには、ご本人の意欲が何より大切です。私たちは、患者さんが病気の理解を深め、自らの意思でリハビリに取り組めるよう、サポートしていきます。

パーキンソン病のリハビリテーション入院

入院期間 約2週間

費用

健康保険による保険診療です。
難病医療費助成制度、後期高齢者医療制度などが利用できます。

入院予約

当院通院中の患者さん

担当医にご相談ください。

他院通院中の患者さん

紹介状をご準備のうえ、脳神経内科の初診外来の予約をします。



入院スケジュール、申込などさらに詳しくはこちら！

臨床と研究を通し、脳神経内科の進歩を実感

私は2001年に筑波大学医学専門学群を卒業して、臨床医としての研鑽を重ね、2010年に東京大学で脳神経医学を専攻して医学博士号を取得しました。

脳神経内科は脳の病気を診る診療科で、私が研修医になった頃はまだ解明されていない病気が大半で、治療が難しい分野でした。脳は他の臓器に比べて複雑で、部位毎に様々な機能があります。脳の病気を治せる医師になりたいと思い、脳神経内科の道を歩みました。

私の研究における専門は磁気刺激法(TMS)です。TMSは、磁場を使って脳を刺激し、病気を診断する方法です。

頭にコイルを当てて電流を流すと、脳が刺激されて手足が動くので、筋電図で時間を測ると、脳のどこに病気があるのか分かります。TMSは痛みがなく客観的な診断ができるのがメリットです。私の研究はTMSを発展させ、筋萎縮性側索硬化症(ALS)やギラン・バレー症候群、慢性炎症性

脱髄性多発神経炎(CIDP)といった神経難病を診断するのに役立っています。

脳神経内科はこの10年で大きく進歩し、不治の病を治せるようになってきました。高齢化が進む今、脳神経内科はますます重要性を増していると感じています。



患者さんファーストで、救急医療にも対応したい

近年、働き方改革を含む様々な要因により、脳卒中を中心とする救急医療に対応できる急性期病院が減っています。私たちは脳神経外科や様々な診療科と協力し、今後も積極的に神経救急を必要とする患者さんを受け入れていきたいと考えています。

私の信条は「患者さんファースト」です。専門的な治療と365日体制の診療を通じて、患者さん一人ひとりの人生に寄り添うことを目標としてきました。この信条を貫きながら、パーキンソン病を中心とする神経難病のみならず、脳卒中を中心とする神経救急にも対応し、多くの方に安心と希望を届けて、社会貢献をしたいと考えています。



脳神経内科 部長

松本 英之 医師

HIDEYUKI MATSUMOTO

2001年 筑波大学医学専門学群 卒業
2003年 東京大学医学部附属病院 神経内科
その後国立国際医療センター、横浜労災病院 にて勤務
2010年 東京大学大学院 博士課程 医学研究科 脳神経医学専攻 卒業
日本赤十字社医療センター 神経内科
2016年 日本赤十字社医療センター 神経内科 副部長
2018年 三井記念病院 神経内科 科長
2019年 三井記念病院 脳神経内科 部長

「アイソトープ検査室」



案内人

診療放射線技師
細田 直樹

見えない体のはたらきを“画像”で見る

三井記念病院には、普段なかなか立ち入る機会のない特別な部屋がいくつもあります。今回ご紹介するのは、そんな「ちょっと気になる部屋」のひとつ、入院棟2階にある「アイソトープ検査室」です。

入院棟の奥の奥にあるお部屋ですが、実はとても高度な画像診断が行われている場所です。

この検査室で行われているのは「核医学検査」と呼ばれる特殊な画像検査。わかりやすく言うと、放射性同位元素（ラジオアイソトープ）というごく微量の放射線を出すお薬を体に投与し、その動きを特殊なカメラで撮影することで、体の内部の状態を“画像”としてとらえる検査です。

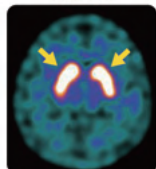


パーキンソン病診療にも欠かせない技術

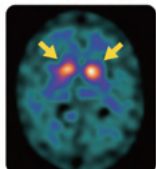
このアイソトープ検査室では、脳神経内科の診療でも重要な役割を果たしています。特に「パーキンソン病」の診断に使われる「ダットスキャン(DATスキャン)」という検査が代表的です。

パーキンソン病では、脳内の神経伝達物質「ドパミン」を運ぶ神経細胞が少しずつ減っていきます。ダットスキャンでは、ドパミンの取り込み具合を画像で可視化することで、神経細胞の働きを間接的に確認することができます。この検査は、早期診断や病気の進行度を把握する手がかりとして、とても有効です。

健康な人



パーキンソン病



日本メジフィックス株式会社HPより



検査はこんな流れです

アイソトープ検査室は、入院棟2階の専用エリアにあります。検査前にお薬（放射性医薬品）を注射し、しばらく安静にして体内に取り込まれるのを待ちます。その後、検査室に入り撮影用のベッドに横になります。

検査自体は20～30分ほど。痛みはなく、静かに横になっているだけで終わります。検査後はすぐに帰宅や食事が可能です。

放射線の量はごくわずかで、体に影響はありません。安心して検査を受けていただけます。



三井記念病院の 登録医紹介

三井記念病院では、地域の医療機関との連携をこれまで以上に強化し、医療を必要とする患者さんに対して、切れ目のない適切な医療を提供できる体制づくりを進めています。本コーナーでは、当院の登録医として連携にご協力いただいている先生方をご紹介します。



院長 山下 徹志

サルスクリニック日本橋

東京都中央区日本橋2-8-1
東京日本橋タワーアネックスB1F
Tel 050-3851-0269

診察時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00-21:00	●	●	●	●	●		
9:00-17:00						●	●



【休診日】
診療スケジュールを
ご確認ください

内科 糖尿病内科 腎臓内科 循環器内科

東京・日本橋にあるサルスクリニック日本橋。院長を務める山下徹志先生に、医師を志したきっかけや診療への想い、三井記念病院との連携などについてお話を伺いました。

科学への関心が導いた医師への道

子どもの頃から科学が好きで、将来はその興味を活かして人の役に立てる仕事がしたいと考えていました。そうした想いから医師という職業に魅力を感じ、医学の道を志しました。

大学卒業後は、長野県佐久市の病院で初期研修を行い、大学の腎臓内科に入局。市中病院や大学病院での専門研修を経て、大学院に進学し腎臓疾患の研究に取り組みました。その後、アメリカでも3年間研究を続け、帰国後、サルスクリニック日本橋の院長に就任しました。

患者さんにとって最適な治療を共に考える

診療において大切にしているのは、医学的に正しい選択肢を提示した上で、患者さんの希望や背景と照らし合わせながら最適な治療方針と一緒に決めていくことです。また、病気の説明はできるだけわかりやすく行い、患者さんの不安を少しでも和らげることを心がけています。

働く世代に寄り添うクリニック

サルスクリニック日本橋は、平日は21時まで、土日でも診療を行っており、仕事などで忙しく通院が難しい方にもご利用いただきやすい体制を整えています。特に、症状が出にくい生活習慣病は、放置すると合併症につながることもあるため、健診などで指摘を受けた方は、ぜひ早めの受診をご検討いただきたいと思います。

健診と診療の連携、 そして受診しやすい利便性

当院の特徴の一つは、健診と診療を同じ施設内でスムーズに連携できる点です。腎臓、循環器、内分泌など各分野の専門医が在籍しており、健診で異常が見つかった場合でも迅速に対応が可能です。また、立地や診療時間の面でも非常にアクセスしやすく、具合が悪いときに「まず相談できる場所」として多くの方にご利用いただいています。

即日での検査・判断が可能な体制を整えており、「病院に行くほどでは…」と迷われる方にも安心して受診いただけます。



症状の軽重にかかわらず、 継続する体調変化にご注意を

「軽い症状だから」と受診を遠慮される方も少なくありませんが、例えば症状が2週間以上続くようであれば、何らかの病気が潜んでいる可能性も大いにあります。体調の変化に気づいた時点で、まずはお気軽にご相談いただければと思います。

三井記念病院との信頼ある連携体制

腎生検や心臓カテーテル、不整脈治療、透析導入など専門的な検査や処置、病院でしか行えない治療が必要と判断した場合には、適切に連携して治療を進めます。三井記念病院にご紹介した場合、いつもしっかり受け取ってもらえ、困ったときに迅速に対応していただけるので大変感謝しています。大学病院時代から面識のある先生方が多く在籍されていることもあり、スムーズな連携が取れています。常時、信頼性の高い連携が取れることは、患者さんにとっても大きな安心材料だと感じています。

気軽に相談できるクリニックでありたい

当院では、「病院に行くほどではないけれど、何となく調子が悪い」といった日常の体調不安にも対応できるよう心がけています。そうした気軽な受診が、重大な病気の早期発見につながることもあります。「ここに来れば安心できる」と思っていただけるような、信頼されるクリニックを目指して、日々取り組んでいます。今後は、すでに確立されている利便性に加えて、医学的な正確さや患者さんの満足度といった「医療の質」にさらに磨きをかけたいと考えています。地域の皆さんの「かかりつけ医」として、日々の健康を支える存在であり続けたいと思います。

サルスクリニック日本橋

WEB予約も可能！ホームページはこちら！





三井記念病院では、患者さん向けに各種イベントを開催しております。
参加無料になりますので、ぜひご参加ください。

メモリーカフェ

認知症疾患医療センターでは、もの忘れや認知症について参加者同士の交流、専門家から情報提供する場として毎月第4金曜日にメモリーカフェを開催しています。認知症の有無に関わらず、ご家族の方、関心のある方、ちょっと気になる方、どなたでもご予約不要でご参加いただけます。



URL <https://www.mitsuihosp.or.jp/division/support/dementia/>

いずみサロン

がん相談支援センターでは、がん患者さんやご家族同士が「語り合う場」としていずみサロンを開催しています。病状や治療の状況、現在の悩みや困っていること、頭から離れない考えを声に出してみませんか？がん相談支援センターの相談員が皆さんの交流をサポート致します。途中参加・途中退室も自由ですので、お気軽にご参加ください。



URL <https://www.mitsuihosp.or.jp/division/department/cancer/tomoiki/#izumi>

腎臓病教室

腎臓内科(血液浄化部)では、腎臓病に関する情報発信として、年に4回「腎臓病教室」を実施しております。医師をはじめ、看護師、栄養士など様々な職種から腎臓病に関わる内容を分かりやすくご説明させていただきます。会場の他、Webでも実施しておりますので、お気軽にご参加ください。詳しくはホームページや院内に掲示するご案内文をご参照ください。



URL <https://www.mitsuihosp.or.jp/media/jinzonenkan05.pdf>

皆さまから貴重なご寄付をいただきました(順不同)

個人

川端 佳正様
澤本 清史様
大島 節子様
吉原 勝美様
藤本 奈那子様
細田 卓次郎様
吉田 剛士様
小川 修武様
井原 宏明様
石川 勝子様
柴田 毅正様
野口 恒河様
金子 昌男様
石渡 光男様
長谷川 正史様
小川 克美様

浅川 真知子様
馬田 栄様
小仲井 美佐子様
竹田 禎久様
岩上 利夫様
服部 喜洋様
増地 良枝様

法人

株式会社タスクオプチカル
株式会社キングジム
一般財団法人TOPPAN三幸会
一般財団法人三井報恩会
三井グループ350周年記念事業
実行委員会(三井グループ25社)

▶匿名希望 27名



社会福祉法人

三井記念病院



〒101-8643 東京都千代田区神田和泉町1番地 TEL:03-3862-9111(代表)



三井記念病院
ホームページ